

令和3年度 さいたま市立大谷中学校 学校関係者評価書

さいたま市立大谷中学校
学校関係者評価委員長 黒木光子 印

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 9人 (2) 実施回数 2回(紙面)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

【学校評価結果について】

本年度も昨年よりはとはいえコロナ禍の影響から、まずは評価項目を変更しての学校評価となった。保護者の来校する機会が少なくなったためコロナ禍でのオンライン授業や部活動等に焦点を当て新たな学校評価とし前年度との比較は全てではない。結果としては生徒・保護者ともに各項目で、肯定的な結果を頂いている。また、生徒はタブレットを使用した授業、コロナ禍での学校行事・学校生活・部活動等の変革にも柔軟に対応し、一生懸命取り組んでいる。来年度はコミュニティスクールへの実施の年となるが、これを機にさらに地域と密着した学校の教育方針のもと、望ましい生活習慣・学習習慣のいっそうの定着を目指して、取り組んでほしい。

【基礎学力向上に向けた学校での取組について】

学習状況調査等より本校の学力について分析し、基礎学力や家庭学習の習慣等について課題を明確にした。そして、基礎学力の向上と家庭学習の定着を継続したねらいとし、引き継ぎ、放課後に毎日10分間「基礎学習」、翌日「基礎コツ」ノート提出という学習活動を展開している。本年度は提出物のタブレット使用の試行も行った。子ども一人ひとりの生活習慣・学習習慣を定着・向上させるうえで、継続することの意義を考えた取組と感想、成果と課題を踏まえながら、いっそう充実させたものとしてほしい。

【学習状況調査結果(生活習慣)について】

本年度も生活習慣に関する調査のみであったが、この結果から市の回答との比較で、「朝食を毎日食べているか」「毎日同じ時間に寝ているか・起きているか」に関しては数値的に大きな差はなかった。また学校教育目標にも掲げている「夢や目標を持っているか」についても肯定的な意見とそうでない意見の差がもう少しあってほしい所である。課題としてはこのコロナ禍の影響もあるかと思われるが、家庭での過ごし方について考え、子どもを、家庭・地域・学校で育て見守っていくという観点からも、学校関係者として、協力していきたい。

【安全・安心な学校・開かれた学校づくりに向けて】

安全・安心な学校であることを最優先に願わずにはいられない。また学校においては一人ひとりを大切に、寄り添う姿勢を様々な場面で全職員で取り組んでいる。こうした意識を高く持ち積み重ねることにより、様々な課題の予防となり、また早期発見・早期解決となっている。生徒・職員の信頼関係の構築をさらに願い、それとともに、保護者・地域も協力していきたい。さらに開かれた学校づくりに関して、一人ひとりの生徒が地域で活かすことのできる活動や紙面での啓発をお願いしたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 今年度の学校評価・関係者評価より、成果と課題の検証を行い、引き続き予測の難しい時代における信頼される学校づくりに努めたい。
- 基礎学習・家庭学習の定着を図るために、来年度はタブレットの併用の試行を行い、引き続き賞賛を与えながら取り組む工夫により自主性を目指し、学習の意味を理解させたい。
- 家庭生活について、各家庭の状況を把握しながら、家庭には協力を得られるよう歩み寄り、生徒には目をかけ手をかけ、小さな変化を見逃さず、根気強く、継続的に優しさをもって取り組む。
- 生徒の実態等を踏まえ、スクールアシスタントを配置した学習相談室のより充実した活用やさわやか相談室の利用など多様性を持った指導方法の工夫を図る。
- 家庭環境等に配慮の必要な生徒が多いため、教職員一人ひとりが意識を高く持って傾聴、寄り添う対応による指導ができるよう、教育相談体制の更なる充実を図る。さいたま市立大谷中学校長 渡辺典子 印